

「ヒヤシンスの芽生え (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

一年生の栽培活動は、全国的に「アサガオ」と決まっている。これは私が小学校1年生の頃(約半世紀前)も同じだった。大抵は「一人一鉢」での活動だろう。春に種まきをして、毎日お水をやって、追肥をする。夏休みには家に持ち帰って、毎日花の数を数え、2学期にはまた学校に持ってきて、種とりをする……。こんな光景が全国で行われている国は、日本だけだろう。秋になると、その使い終わった鉢と土が残る。



今年の1年生は「ヒヤシンス」を植えることにした。ヒヤシンスは室内での水栽培が普通で、購入した球根も本来は水栽培用だ。しかし、土栽培でも可能である。色は5色。クラスごとによく相談して一人一個選んだ。



土に植える前に、よく観察する。「タマネギと似てる!」「もう芽が見える!」など、1年生なりにいろいろな気づきがあったようだ。



ヒヤシンスの球根は、外皮にアレルギーを起こす子どもが多いので、特にほっぺたにつけないほうが良い。心配な子どもは、軍手を着用させた。ほとんどの子どもは球根の植え付けは初めてで、慎重にやっていた。



その後冬休みを越して、東京は寒い日が続いていた。1年教室前にずらりと並んだ鉢も、寒々としている。



一見忘れ去られていたように見えたヒヤシンスだったが、子どもたちは意外とよく世話をしている。よく見ると、芽が出始めているではないか!